

私立女子中学・高校の保健室利用状況

宮原 忍（東京大学医学部保健学科）

都内の私立女子学園の、中学並びに高校生の保健室の利用状況を利用カードから調査した。生徒数は中学428名、高校710名である。中学は1学年約140名で高校にはその他外部から約100名が入学する。対象期間は1984年4月から同年12月である。

中学においては、1年生の利用は外科的理由のべ134件、内科的その他の理由125件、2年生外科的理由131件、内科的その他の理由176件、3年生外科的理由119件、内科的その他の理由157件で、特に2年生に内科的理由が多かった。

症状別にみると、頭痛が16%で最も多く、ついで腹痛の15%、“だるい”、“気分不快”的12%、吐き気の8%、寒気の7%、生理痛5%、“ふらふらする”及びのどの痛み各4%などとなった。学年差が見られたものとしては、頭痛が124件中、1年生28%、2年生48%、3年生24%、“だるい”は94件中1年生28%、2年生41%、3年生31%、生理痛は36件中1年生14%、2年生64%、3年生22%、のどの痛み32件中1年生28%、2年生44%、3年生28%と特に2年生で多かった。気分不快、胃痛は3年生に多かった。

原因として考えられるものは、風邪が最も多く42%を占め、次いで睡眠不足の23%、月経の13%、冷え・寝冷えの6%であった。これらはいずれも学年差があり、風邪では110件中1年生22%、2年生47%、3年生31%、睡眠不足は60件中1年生18%、2年生53%、3年生57%、月経は34件中1年生15%、2年生56%、3年生29%、冷え・寝冷えは16件中1年生13%、2年生63%、3年生25%で、すべて2年生が特に多かった。

以上、中学では2年生の利用が多いが、上に挙げた数字と養護教諭の印象から、心身症的訴えが少なからずあるようであり、特に心理的リ

スクの高い年齢層であると思われた。

高校では1年生では外科的理由224件、内科的その他の理由412件、2年生外科的理由215件、内科的その他の理由511件、3年生外科的理由215件、内科的その他の理由287件であった。高校でも内科的その他の理由が2年生で多かったが、全体での割合は中学ほど際立って多いとは言えなかった。3年では利用は明らかに少なかった。

内科的その他の理由について、中学と高校を比較すると、中学ではこの理由で保健室を利用した回数は、平均一人1.1回であったが、高校では平均一人1.7回であった。

症状別には、頭痛が最も多く16%、次いで腹痛14%、気分不快、生理痛、“だるい”とともに10%、吐き気が6%、寒気、のどの痛み、胃痛がそれぞれ5%などが主たるものであった。学年差を見ると、頭痛は295件中1年生38%、2年生38%、3年生24%、腹痛は263件中1年生34%、2年生45%、3年生21%、気分不快は186件中1年生44%、2年生40%、3年生16%、生理痛は181件中1年生25%、2年生44%、3年生31%、“だるい”179件中1年生46%、2年生34%、3年生20%などで、生理痛以外では3年生での利用が最も少ない。推定された原因としては、風邪が最も多く38%を占め、次いで月経の23%、睡眠不足17%であった。

以上をまとめて見て、中学2年生は心理的に変化の大きい時期であり、心身症的訴えが増加する事が、考えられたが、高校2年生も保健室の利用が多い事に注目すると、新しい集団が出来て、2年目位にストレスが表面化するというメカニズムも考えられる。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

都内の私立女子学園の、中学並びに高校生の保健室の利用状況を用力ドから調査した。生徒数は中学 428 名、高校 710 名である。

中学は 1 学年約 140 名で高校にはその他外部から約 100 名が入学する。対象期間は 1984 年 4 月から同年 12 月である。

中学においては、1 年生の利用は外科的理由のべ 134 件、内科的その他の理由 125 件、2 年生外科的理由 131 件、内科的その他の理由 176 件、3 年生外科的理由 119 件、内科的その他の理由 157 件で、特に 2 年生に内科的理由が多かった。